

2023年度 卒業論文

若者の支持する政党とは

- 年齢別選挙区による参議院通常選挙比例代表の議会構成から見る国政

政党の特徴 -

2024年1月6日

武蔵大学経済学部金融学科

蓮見ゼミナール第3部

学籍番号 1203080 梁取慧

要旨

日本では少子高齢化の進展により、高齢の有権者人口が増加している。高齢者増加により高齢者層の政治影響力が高まり、若年層や中年層の意見が政治に反映されにくくなる。このような状況では、シルバー民主主義といわれる、高齢者向けの政策が優先されるようになる状況が懸念される。

この問題の背景には、有権者の多数を占める高齢者の支持がなければ議席を獲得するのが困難な現行の選挙制度の存在が挙げられる。本稿では、シルバー民主主義の存在及び世代別の意思決定の反映しやすい選挙制度を調査した先行研究を踏まえて、2007年から2022年にかけて実施された6回の参議院通常選挙の比例区に着目する。選挙結果から世代別投票率、世代別投票先のデータを収集して、39歳までの有権者の青年区、40歳から59歳までの有権者の中年区、60歳以上の有権者の老年区という実際の比例区を年齢別に3分割した年齢別選挙区を導入した場合の各政党の仮想的な獲得議席を検証した。

その結果、与党第一党と野党第一党に有利になる一方で、元来強固な組織票を持つとされる公明党や共産党は議席を減らし、旧みんなの党や日本維新の会等のいわゆる第三極の議席の変化は少なかった。年齢別で見ると青年区の有権者は選挙ごとに投票する政党が変化する特徴があり、中年区の有権者は6回の全ての選挙で約40%が選挙時点の野党に投票し、第三極への支持が厚いという特徴があり、老年区の有権者は与野党合計の得票率の差が一番小さく、旧民主党系の政党や共産党、社民党を支持する割合が高いことが示された。また、第三極の国民民主党は20歳から30歳までの若年層の有権者に支持されていることが明らかになった。